



本日は第1回 OUTBACK 主催公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。

本公演は私たちの他に、「ことぶき『てがみ』プロジェクト」、「シプリングス」という2つのグループにも出演いただきます。いずれのグループもメンタルヘルスに不調を抱えている人たちが中心となって表現活動に取り組んでいます。メンタルヘルスに不調を抱えながらサバイブしてきた中で培った底知れぬ力、表現力を存分に味わっていただければと思います。

私たち OUTBACK アクターズスクールは、今年の春からスタート。はじめはカラダとアタマをフルに動かし、人と交わることの楽しさを実感するようなワークから始めました。そして、自分自身のこと、病気のことなどを語り合いながら、劇を作っていました。正しい答え、あるべき姿もなく、ただひたすら「やってみる」ことの先に何かがあると信じて活動してきました。そう信じられたのは、練習を重ねるごとに、スクール生の表情がどんどん豊かになり、目の輝きがましていったからです。

さまざまな理由で抑え込まれてきた彼らの力が、今日この舞台上で一齐に解放されます。

その瞬間をお見逃しなく!

OUTBACK アクターズスクール校長
中村マミコ

「なんで演劇をやるんだろう」

今年の4月に私自身がコロナ陽性になりました。夏の舞台では共演者が陽性になり、辛い思いをしたのを目の当たりにしました。面白いから見に来て!と気軽に言えない世の中で何のために創り演じるのだろう、その疑問が強くなった年でした。

退院し、だるさも抜け切らない4月の終わり頃、OUTBACK 第1回目のワークショップがありました。そこには、演劇って何?という方々がいました。いざ聞かれると…確かに演劇ってなんだ?と思いました。その時は皆さんと探りたいと言いました。その最中、ある出演者の携帯が鳴り、その方が電話口で「今、演劇やってんのよ!演劇」と言いました。笑いました。そっかー私今も演劇やってるんだー、と。

探りました、全16回。今日の本番でも探ります。演劇って何?を探り続けることが私の演劇をする目的なのだとは今は思っています。人様の為なんて偉そうなおことはまだ出来そうにありません。OUTBACKの皆さんはそれを一緒に探究してくれる、演劇人です。会う度に気づかされ、沢山もらえる日々でした。

本日はご来場頂き、誠にありがとうございます。どうぞ、これが演劇か?とご一緒に探って頂けたら幸いです。

OUTBACK アクターズスクール講師、俳優
前原麻希

僕の初期のワークショップでは、「自分の好きなこと」を再現してもらったり、「私の思い出」を詩や絵日記で表現してもらいました。

すぐに鮮烈な言葉や伸び伸びとした絵が出現しました。その素直に飛び出してくるものを見て、この人たちは立派な表現者なんだ、そして表現したいことがある人たちだ、と確信しました。

僕は、表現というのは「自分の中にあるものを外に出すこと」だと考えています。参加している皆さんは、各々自分と向き合っている苦しい時間があり、自分を嫌だと思ったり認めたり諦めたり色々な思いを経て、そんな自分を外に、世界にあらわすことのできる勇気を持った人たちだと感じています。

今回、ほぼ全員が初舞台とのことで、稽古は大変だったり愉しかったりしたと思います。僕にとっては、刺激的な日々でした。自分は皆みたいに自分をさらけ出せているのかと突きつけられもしました。

どのような本番になるのか分かりませんが、今後ずっと、愉しんで表現をしていってくれたら僕は嬉しいです。

OUTBACK アクターズスクール講師、俳優
加藤啓

<あらすじ>

物語は、トモキチ青年が働いていた倉庫や家でトラブルを起こし、措置入院（精神科病院に強制的に入院させられること）になるところから始まります。入院した病棟で開かれていたのは、患者たちによる「マッド・ティー・パーティー。」患者一人一人の大切な思い出、家族への思い出などが語られていきます。そんな語りを聞いているうちに、トモキチ青年の心にも変化が・・・。

OUTBACK アクターズスクールのスクール生たちが、ワークショップの中で語った実際のエピソードをもとに、このメンバーでなければ作り得ない、唯一無二の劇に仕上げました。

<出演者>



<トモキチ / 主人公>

思考伝播という感覚があります。作業所では草刈りやメール配達、家ではゲームや洋画鑑賞をしています。好きな映画はアラバマ物語と赤い河。小説も頑張って読んでいます。演劇は佐藤光展氏に誘われて参加しましたが、基本的な面で幼いので、つい「本当はやりたくありません」と言ってしまう。禁止ワードで身動きが取れなくなるがあるので、未来を確定したい。



<ケイコ / いじわる看護師>

作業所に通所しながら、KP 神奈川精神医療人権センターの電話相談員もやっています。うつ病少々、極度の不眠症、人見知り少々。病気は不便ですが、これも私の個性のひとつだと思っています。表現の勉強は、リハビリにも支援活動にも役立つと感じています。



<ナギー / さすらいの患者>

いつも逃避しています。社会から、自分から逃げて、白昼夢にひたりながら、食べ逃げ、寝逃げをしています。誰かつかまえてください。時々、当事者活動もしています。演劇をやることで自己中心の殻から飛び出て、人とつながる瞬間を経験してみたい。



<あやみ / 体験を語る患者>

グループホームで生活しながら、地域活動支援センターに通っています。私の病気の名前は統合失調症。薬の服用をずっと続けなければならないのが大変です。新しい人たちと知り合って、面白いこと、楽しいことがしたいなと思って、参加しました。



<まり / 髪を切られる患者>

作業所に通所しつつ、キーボードで作詞・作曲しています。最近PCでアニメーション作りも始めました。統合失調症です。音楽や神の声、友達の声だと思っています。佐藤健さんに憧れ、表現することの楽しさを知りたくて参加しました。演技には生きがいを感じています。素晴らしいコミュニケーションだと思っています。



<ゆゆ / トモキチの母親>

病気はうつ病、摂食障害、パニック障害、睡眠障害などなど。働く事はドクターストップのため出来ません。病気は一生のお友達だと思って、付き合っています。でも、まだまだ色々な事にチャレンジして、自分自身を成長させたいし、障害を抱えながらも頑張って生きている姿が観客の心に届くことを願っています。



<くっさー / 音楽を操る患者>

作曲家。舞台、映画への楽曲提供をするかわら、人が音楽を奏ではじめる瞬間・作りはじめる瞬間に魅力を感じ、学校、文化施設、福祉施設でセッションや曲作りをしています。役者をやってみたかったので参加しました。参加者の皆さんと共有してきたお話や経験が、お客さんにもしっかり伝わるといなと思っています。



<ハツオ / 精神科医>

コロナでだいふ暇になり、テレビで野球観戦する毎日でした。病気は統合失調症。薬に頼るだけでなく、自己流のリハビリ法も身に着けました。演劇活動などで、精神障害のことが広く知られることで、差別偏見等の生きづらさを減らしてゆきたいと思っています。



<ドニー / 体験を語る患者>

会社員。病気はうつ病。これに参加すれば、自分の引き出しが絶対に増えると思いました。今回の劇は、色々なものが幾層にも重なってできています。劇を作るという一つの道をみんなと一緒に歩んでいるだけで、目の前の景色が変わっていく。その感覚が劇にも滲み出ているといいなと思います。



<アッコ / 結婚式の職員>

普段は作業所で働いています。双極性障害と診断されていますが、感情のコントロールができれば普通に生活できます。マミコさんが以前にやっていた演劇プログラムが楽しかったので、参加しました。みなさんのエピソードを、観ている方たちにうまく伝えられたよと思っています。



<クロー / 警察官>

作業所とデイケアに通っています。主に神経症ですが、統合失調症と言われて入院したこともあります。学生時代から色々な症状で苦しみました。今は薬も少なくなり、いろいろなことをやれているのでめっちゃ幸せです。演劇を心から楽しみながら、自分の可能性を表現したいです。



<サルUTE / 仕切りたがりの患者>

マンドリンを弾いたり、楽団の指揮者をやったり、スポーツを観たり、売れない心理セラピスターをやったりしています。双極性障害らしいです。思いもよらぬパンジー、逆パンジーのテンション。「安定」という言葉が最も似合わない存在です。「自己表現力」を更に向上させたい！



<おとみ / 優しい患者>

作業所でメール便の配達をしています。病気は統合失調症。みんな楽しく余暇を過ごしたため、参加しました。病気があっても、グループワークなどができることを伝えたいです。



<たくっちゃん / ケーキ好きの患者>

作業所でお菓子を作ったり、カフェで働いたりしています。引きこもりの経験があり、今は他人とお話をするように心がけています。歌舞伎を見るのが好きです。私のありのままを表現したいと思っています。



<たく / ジャマイカ好きの患者>

ふだんは音楽活動とか、障害のある人の居場所の運営、就労支援などを行っています。どんな時でも確かなことは、呼吸する自分であって、その内声に向き合うことの大切さを少しでも表現したいです。



<モトコ / おとなしい患者>

作業所に通所しています。いろいろなことが気になりがちですが、気にしないようにしています。参加した一番の目的は運動不足解消のためですが、私でも役に立てるのではないかなと思うようになり、続けてきました。



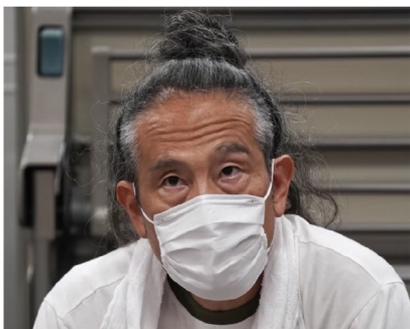
<マル / 音楽を操る患者>

就労移行支援事業所で職業訓練をしています。自意識過剰な統合失調症です。大学時代、英文科学生としてシェイクスピアをリスペクトし、舞台劇作家を志望していました。裏方志望ではありませんが、この劇ではパーカッションを担当します。



<くにくく / おしゃれな患者>

メルカリをよく使っています。病気はうつ病。自分の輪を広げたいから参加しました。大きな声で、みんなを楽しみたいと思っています。



＜トマツ / 時計＞

戸松美貴博の名で、時に山下洋輔さんとも組んで、肉態表現に打ち込んでいます。病名はたまたま付けられていませんが、子どもの頃は多動性や集中力欠如がひどく、「将来が心配」と通知表に書かれました。不思議なご縁でこの場に。ソレだけでココロおどる!



＜サシくん / 歌手＞

作業所に通所しながら、絵や音楽などの創作活動に日々取り組んでいます。得意のシュールな表現で、多くの人を虜にしちやいます。この劇では主に歌い手として出演します。



＜朝びよん＞

病気とは、仕方のない相棒だと思って付き合っています。今入院しています。退院したら高齢者住宅に引っ越す予定です。今回レッスンは入院のため中断してしまいましたが、次回作には頑張っで参加したいと思っています。
※現在入院中



＜伊藤時男さん＞

伊藤さんは、16歳の時になぜか「アルコール依存症」と診断され、精神科病院に計40年以上も閉じ込められていました。このような人権侵害の極みを放置し続けた国の責任を問うため、精神医療国家賠償請求訴訟の原告となり、裁判を戦っています。

中学生の時に美術部長を務めるなど、絵が得意。入院中は自分を保つため、川柳を新聞に投稿し続け、たくさん掲載されました。8月に横浜・桜木町で披露したOUTBACKアクターズスクールの寸劇に飛び入り参加し、迷惑精神科医ドクタートキオを熱演。OUTBACK名誉俳優第1号に認定させていただきました。

今回はロビーに自作の絵を展示しますが、もしかしたらまた、突然現れて劇に飛び入り参加してくれるかも!?

生まれてから死ぬまでに、メンタル不調に一度も悩まされない人などいません。あなたも私も、メンタル不調経験者です。

精神障害者や精神疾患患者と呼ばれる人たちは、持って生まれたピュアな感性と好ましくない環境の相互作用によって、メンタル不調がこじれてしまっただけで、あなたや私も何も変わりません。

精神障害者を一括りにして「頭がおかしい人」とか「犯罪者予備軍」だとか、ヤフコメやSNSにそんなことばかり書いている人たちの方が、頭がおかしく危険です。

感性の類い稀なる豊かさゆえに、メンタル不調が重くなる人は多くいます。その優れた特性を、文化芸術活動にもっと生かせないものだろうか。そう考えて立ち上げたのが、OUTBACKアクターズスクールです。お遊戯でも学芸会でもなく、本気で演劇を作ります。

ここから多くのスターが育っていくはずです。今日は、その記念すべき第一歩。精神障害者たちの真の力をお見せします。

OUTBACKアクターズスクール副校長、ジャーナリスト
佐藤光展

舞台監督：相良ゆみ
制作：横井貴子
イラスト：Ren

音響照明：富山雅之
撮影：佐藤光展

主催：OUTBACK
<https://kp-jinken.org/>
<http://outback-jp.com>